



わんこがっばニュース

市連協のあり方議論 花巻市加盟学童懇談会

県連協は3月14日に花巻市の南城学童クラブで、花巻市内の県連加盟学童クラブとの懇談会を開催。花巻市の保護者と指導員21人が参加しました。

懇談会の冒頭、県連協の阿部勝会長が「地域には色々な特色や課題がある。各地域にうかがってお話を聞き、県連としてできることがないか考えていきたい」とあいさつ。花巻市連協の本宮信也顧問が「花巻市連協として懇談できればよかったが、今回は県連加盟学童での懇談会となった。県内の他の地域の話聞き、地域連協のあり方など考える機会にしたい」と述べました。

懇談会では参加した各クラブが近況や課題を発言。▽学校内で運営しているが、入所を希望する児童が増えており、保育室以外に学校の体育館を生活スペースとみなして運用しているが、5年生以上に退所してもらわなければならない状況▽小学校が義務教育学校に移行することになり、遊び場の確保が課題。支援員不足で、支援を必要とする児童がいても支援員を十分に手当てできない。▽待機児童を出さないため、市からはできるだけ児童を受け入れするようと言われるが、45人以上にな

ると委託料が減ってしまうなどの発言がありました。役員のなり手がいないという発言には、参加した保護者から「支援員主導ではなく、一度保護者に任せてみてはどうか。自分ごととして捉えてもらうことで意識が変わると思う」との発言もありました。

また、市連協の活動について発言があり、「書類の提出など仕事が増えておりメールで済ませられることなら集まらなくてもよいのではないか」といった意見や、「交流が減ってしまっている。集まることや事務が負担と言うが、行事や入所児童数などの報告より、支援員同士が保育で困っていること、こんな良い事例があるなど、そういう交流ができれば仕事が忙しくても、みな喜んで集まるのではないか」「目先のことでなく、次の世代の人たちが学童保育でちゃんと働いていけるよう、市連協がしっかり機能していかなければならない。何のために、どこに向かうのかみんなで掘り下げていく必要があるのではないか」などの意見がでました。

県連協の役員からは、放課後児童健全育成事業の児童の数の具体的な算定方法について、滝沢市連協の委託料返還問題への取り組みなど、他の地域の事例を説明しながら、意見交換を行いました。

地域連協のあり方について、県連の阿部会長は「国の制度が充実すればするほど、事務量が増え多忙になっている。その中で各クラブがどうつながりを持ち、関係を深めていくかは新しい課題でもある。明確な答えは見つかっていないが、良いものを残しながら自分たちで考え、新しい形をつくっていかねばならない。県連協としても、皆さんの議論が深まるような場を提供していきたい」と述べました。

